容器包装の3Rを進める全国ネットワーク 主催　連続学習会　第3回

プラスチックの持続可能な関係性とは?
～多様なステイクホルダーとの共創事例～

講師：浅利美鈴さん（京都大学大学院地球環境学堂）

自己紹介

高月紘先生、酒井伸一先生の指導の下に20年ほど、家庭ごみ細組成調査（京都市と京都大学で40年続く調査）、食品ロス、災害廃棄物、世界のごみ、プラスチックごみなどをテーマに研究をしてきました。

京大生による
マイボトルダンス

家庭ごみ細組成調査

京都市と京都大学が1980年から開始した組成調査です。最近では約400種類に分類しています。

家庭ごみ（燃やせるごみ）の重量内訳では、どこでも同様ですが一番多いのが食料品です。その中でも半数が手つかずで廃棄されており、食品ロスが問題視されています。

プラスチックで関係するのは容器包装以外に、使い捨て商品があり、40年前はほとんどなかったのが、いまは2割くらいまでに増えてきています。容積内訳では、約50%が容器包装材です。

世界のプラスチック容器包装フロー（2013年）

世界的にみると、98%がバージン材料で作られており、年間生産量は7800万t。焼却・熱回収14%、リサイクル14%、埋立て40%で、32%が環境に放出されています。

日本のプラスチックフロー（2013年）

プラスチック廃棄物は940万t（全廃棄物の2%でその約半分が容器包装）。処理としては、リサイクル25%（材料リサイクル22%、ケミカルリサイクル3%）、熱回収57%（廃棄物発電34%、RPF/セメント燃料化13%、熱利用10%）、未利用18%（焼却10%、埋立て8%）。

世界の動き

使い捨てプラスチック規制をする国が年々増加しています。規制の対象としてはレジ袋、ペットボトル、容器包装、カトラリーなど。世界中で脱プラ、循環の流れが目まぐるしく起こっています。

プラスチック資源循環戦略

令和元年５月31日に環境省から大変意欲的な方針が発表されました。

＊リデュース

2030 年までにワンウエイプラスチックを累計 25%排出抑制

＊リユース・リサイクル

2025 年までにリユース・リサイクル可能なデザインに

2030 年までに容器包装の６割をリユース・リサイクル

2035 年までに使用済みプラスチックを 100%リユース・リサイクル等により有効利用

＊再生利用・バイオマスプラスチック

2030 年までに再生利用を倍増

2030 年までにバイオマスプラスチックを 200 万トン導入

製造・販売事業者の自主的な回収や、私たちの生活に関わる部分では、市町村でのプラマークのついている容器包装プラの回収に加えて資源化できるプラも分別に加えるなどが注目されています。これらは、サーキュラーエコノミーの実現や 2050 年の脱炭素への一つの象徴として展開されていくのではないかと思います。

京都市での挑戦

2021 年３月、京都市循環型社会推進基本計画（2021 年～ 2030 年）が策定されました。12 の重点施策のうち次の３つがプラスチック関連となっています。

① 徹底した使い捨てプラスチックの削減

・レジ袋のさらなる削減　・新型ウイルス感染症を契機とした新しい生活様式化での使い捨てプラスチックの削減　・使い捨てプラスチックの削減に取り組む事業者の推奨　・マイボトル利用推進に向けた給水スポットの整備、情報発信　・マイクロプラスチックを含む河川ごみ等の実態把握

② 再生可能資源等の利活用の促進による化石資源からの脱却

・再生可能資源に係る市民理解の促進に向けた事業者と連携した周知啓発　・植物由来のプラスチックや紙素材など再生可能資源を原料とした素材の普及支援　・再生資源の活用促進

③ 徹底したプラスチックの資源循環

・ペットボトルのより質の高い回収・リサイクル方策の検討　・製造リサイクル事業者とも連携したプラスチック製品の回収　・プラスチック製容器包装の分別の推進　・事業者による店頭回収等の自主回収の推進

京都市の数値目標（2030 年度）

政令指定都市では他に例を見ないような大変意欲的な数値目標を掲げています。

＊ごみ量（1人1日）

家庭 370g、事業 330g、合計 700g（2000 年度は 1530g、2019 年度は 762g）

＊レジ袋使用量

1人年間 35 枚（2000 年度は 340 枚、2019 年度は 220 枚）

＊ペットボトル排出量（家庭）

1人年間 45 本（2000 年度、2019 年度ともに 90 本）

＊プラごみ分別実施率（家庭）

60%（2019 年度は 46%）

京都大学プラ・イド宣言

2019 年春、学生と一緒に学内のプラ対策の検討を開始し、「京大プラ・イド宣言」を発表しました。

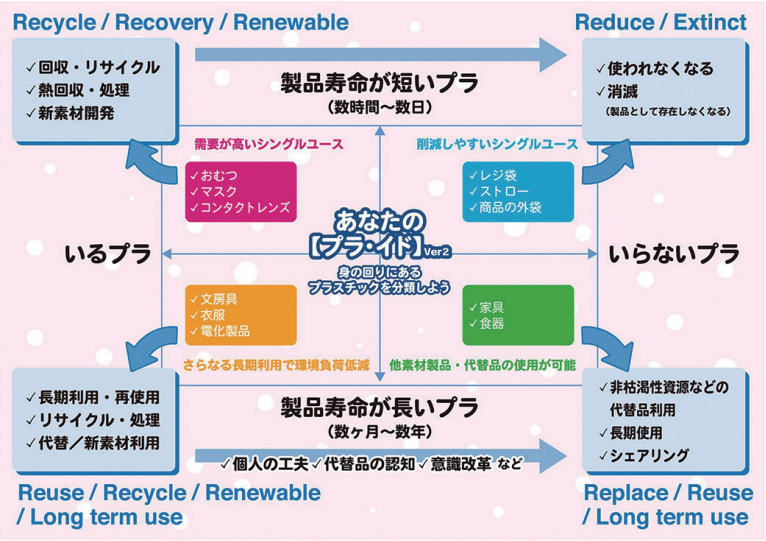
＊考え行動する宣言　＊「かばんの中プラ(写真左)」キャンペーン　＊京都大学プラ・イドチャートの提案（下図）

＊プラ・イド革命（できることからアクション）などに取り組んでいます。

オンラインで共創会議を開催し、全国から世代を超えて数百名の方が集まり、1か月間グループに分かれて実践を行うなど、これからも展開していく予定です。

「マイボトルダンス」の楽しい動画も配信しています。

※「京都大学プラ・イド革命」で検索



まとめ＝江川美穂子